



文化庁  
「ARTS for the future!」  
補助事業

映画祭では全ての作品が  
バリアフリー対応となり  
ます。日本語字幕はスク  
リーンに表示されます。  
音声ガイドはアプリ「UD  
Cast」からお聞きいた  
だけます。



# 高知県ユカリノ映画祭

～全ての人に映画を届ける映画祭～

パート2

2021年11月13日(土)・14日(日)

高知市春野町文化ホールピアステージ 高知市春野町西分340  
TEL:088-894-6767

- 一般・・・1日通し券3,000円(前売りのみ)／鑑賞券1作品1,300円(当日1,600円)
- 大学・専門学校・高校生・障害者・シニア・・・1日通し券2,500円(前売りのみ)／鑑賞券1作品1,000円(当日1,300円)
- 中学生以下無料

高知県ユカリノ映画祭・パート2は、バリアフリー映画祭です。高知県内で撮影された『絵の中のほくの村』『明日をへぐる』の2作品に加え、これまで高知県では見る機会が少なかった『オキナワへいこう』『インディペンデントリビング』を上映します。各回上映後に、監督及び出演者のトークがあります。また、高知カリビアンハーツのスティールパン演奏会も開催、この機会にぜひユカリノ映画祭にご参加ください。

〈主 催〉シグロ  
(特非)脳損傷友の会高知青い空  
〈後 援〉高知県  
〈連絡先〉TEL:090-9450-2990  
(青い空・岡村)

# 高知県ユカリノ映画祭

～全ての人に映画を届ける映画祭～

## プログラム

映画祭では全ての作品がバリアフリー対応となります。日本語字幕はスクリーンに表示されます。音声ガイドはアプリ「UDCast」からお聞きいただけます。

11月13日(土) \_\_\_\_\_

12:00 開場

12:30 『明日をへぐる』

+今井友樹監督トーク

15:00 『インディペンデントリビング』

+平下耕三(出演者)トーク

18:00 『絵の中のぼくの村』

+山上徹二郎プロデューサー・トーク

11月14日(日) \_\_\_\_\_

10:00 開場

10:30 高知カリビアンハーツ演奏

12:00 『明日をへぐる』

+今井友樹監督トーク

14:30 『オキナワへいこう』

+大西暢夫監督トーク

\*各上映後に、監督他ゲストトークあり。

\*各映画の入場券を購入された方は、高知カリビアンハーツの演奏会に無料で参加できます。演奏会のみに参加される場合は、一般・学生に関係なく当日1,000円となります。



高知カリビアンハーツ

この町の山間部、吾北地区上東小(休校)が活動拠点です。1996年、大阪の打楽器奏者、山村誠一さん(県観光特使)に出会い、カリブ海発祥のドラム缶楽器スチールパンを知りました。その魅力を皆さまにお届けします。

## 明日をへぐる

今井友樹監督作品 73分/HD/DCP/2021  
製作:シグロ 配給:Palabra/シグロ

企画・製作/山上徹二郎 企画協力/田岡重雄  
撮影/今井友樹・伊東尚輝  
音楽/山村誠一・山田やーそ裕  
ナレーション/原田美枝子 ポスター画/田島征三



©SIGLO

高知県の町吾北地区で、今も和紙の原料である楮(こうぞ)を育て、土佐和紙を守ってきた山里の人びとの暮らしを1年半にわたって記録した作品。千年持つと言われる和紙がなければ、私たちの歴史が残ることはなかった。失なわれゆく世界の記録ではなく、私たちの明日への希望を語るドキュメンタリー。

## インディペンデントリビング

監督/田中悠輝 2019/日本/98分

プロデューサー/鎌仲ひとみ  
撮影/辻井潔 岩田まき子  
田中悠輝 マット・フィールド  
編集/構成/辻井潔



©ぶんぶんフィルムズ

物語の舞台は大阪にある自立生活センター。ここは障害当事者が運営をし、日常的に手助けを必要とする人に対して、一人暮らしができるよう支援をしている。映画は、家族との衝突や、ヘルパーをはじめとした人間関係作りなど、課題にぶつかりながらも自立生活を志し、ささやかに、けれども確実に変化していく人々の姿を丁寧に映し出していく。監督は、自らも介助者として働く田中悠輝。

## 絵の中のぼくの村

監督/東陽一  
シグロ/1996/1時間52分/35ミリ・カラー

出演/松山慶吾、松山翔吾、原田美枝子、長塚京三

第46回ベルリン国際映画祭、銀熊賞  
第23回セント・フランシス国際映画祭、グランプリ  
第16回アミアン国際映画祭、グランプリ ほか受賞多数。



©SIGLO

原作は、絵本作家である田島征三の自伝的エッセイ「絵の中のぼくの村」(くもん出版刊)。ふたごの兄・征彦もまた絵本作家。二人が「生涯で一番大切で楽しい思い出」と語る、高知での少年時代のエピソードに、原作にはなかった三人の老婆や伝説の妖怪を登場させ、物語をいっそうファンタジックなものにしている。1996年度第46回のベルリン国際映画祭にて銀熊賞を受賞。日本映画としては9年ぶりの受賞となった。感受性豊かな少年期を独創的な視点で描き「静かなユーモアと深い叡智」を湛えた作品として高く評価された。

## オキナワへいこう

監督・撮影・編集/大西暢夫  
2018/日本/81分

精神科の長期入院の患者を抱える大阪の浅香山病院が舞台だ。何十年と入院し続け、退院の見込みはほとんどない慢性期病棟。そんな中、一人の患者が「沖縄に行きたい」という夢を語ったことがきっかけで、有志の看護師たちが動き始めた。沖縄旅行は、5人中2人しか実現しなかったが、その些細なきっかけが、精神科病棟に風を吹かせ、患者の生きかたを変えた。



©大西暢夫/NPO法人kokoima



UDCastアプリの  
ダウンロードはこちらから



[Android]



[iOS]

このチラシの音声読み上げ  
対応のテキストはこちらから

